

令和4年1月7日

令和3年度3学期始業式 校長挨拶

青年は「探求」せよ！

校長 高野 修一

あけましておめでとうございます。みなさんは、新しい年をどんな気持ちや決意で迎えたでしょうか。

3学期の始まるこの1月は、暦の上では、新しい1年の始まりです。「1年の計は元旦にあり」といわれ、新しく始まる1年に人はさまざまな願いや決意をもって臨みます。みなさんにとってこの1年が素晴らしい年になるように願っています。

さて、3学期はみなさんにとってどんな学期なのでしょう。3学期は、1年間の学校生活の総まとめでもあり、卒業・進級に関わる極めて大事な学期となります。特に3年生のみなさんにとっては、高校生活最後の学期とともに進路を決める大事な学期となります。それだけに思い出に残る、そして有終の美を飾るに相応しい学期として位置づけてほしいです。同様に、1・2年生は、上級学年への進級のために不退転の決意で臨まなければならない学期です。

そこで1年の最初に評論家、堀秀彦氏の「青年に於ける自己の探求」の一説についてお話します。

「青年は基本的に探求者なのである。…（中略）…青年が探求者であることを止（や）めるとき、これほど青年としての大きな墮落はあり得まい。何一つ探し求めることのない人間、それは老いたる人間の姿である。探求することによって青年は青年なのである。…（中略）…若くして探求の精神を投げ打つ青年のみが増えたとしたら、この社会は一切の進歩を停止するだろう。」

若い人たちが何かを「求める」心がいかに大切か説いたものです。自分にとって未知の欲求を探求する精神がなければ社会の進歩は停止してしまう、とまで言及し、若い人たちに奮起を促しています。

スポーツの世界でも同じことが言えます。一芸に達するまでは、その基本動作を繰り返し鍛錬し体に染み込ませます。スポーツは、その経過を自分で確認することができますが、学問の世界はなかなか目に見えてきません。しかし、反復学習によって心に深く刻まれます。それが将来の自分の生き様を形成するのです。若いときの吸収力は迅速かつその容量は大きく、年齢を重ねるごとに探求の意欲、吸収力が衰えていくことは確かです。

「若さ」は何ものにも代えがたい財産です。その財産を削ってしまうか、頑張って付加価値をつけて拡大するかは、個人の力量にかかっているのです。

高校までの教育は、人間が生きていくための土台を築く基礎学問です。1年の最後の3学期、学校での学習の大切さを確認し、頑張ってください。と同時に新年に抱いた夢や希望の実現に向かって努力されることを願っています。

最後になりますが、この年末・年始で新型コロナウイルスの感染者数も再び増加傾向に転じました。また、新たな変異ウイルスで感染力の高いオミクロン株の動向も心配です。ここで大切なのは、一人ひとりがしっかりと感染症対策をとり続けることです。具体的には、毎日の健康観察を欠かさずに行うとともに、三密を避け、不織布マスクの着用、手指の消毒、換気や黙食の徹底、カラオケ・ゲームセンターなど、限られた空間に人が密集する場所へは行かない、生徒同士による不要な旅行や宿泊は控えるなど、引き続き感染症対策については、もう一度各自見直し、万全の対応をお願いします。また、何か心配なことや不安なことがあった場合は、一人で悩まずに家族・担任・顧問など、身近な人や相談機関にすぐに相談してください。

※今回お話した内容は、最近おなじみの「探究」ではなく、「探求」についてのお話です。どちらも大切なことなので、引き続き学校での探究活動もしっかり取り組んでください。